

静岡松涛タイムス 第45号

発行元：静岡県本部広報部 責任者：滝田宏平

連絡先：0547-36-1238(TEL) 0547-36-1293(FAX)

E-mail：kouheichan@tiara.ocn.ne.jp

URL <http://www.shizuoka-karate.com/> (公式 HP)

<http://www4.tokai.or.jp/sougou/> (広報部)

第4回県中部地域しずおかスポーツフェスティバル



平成22年10月3日(日)に藤枝市の静岡県武道館にて第4回県中部地域しずおかスポーツフェスティバルが開催されました。この大会は県連に登録している静岡県中部地域の様々な流派・会派の各道場の交流を目的に3年前より行なわれており、本年で4回目となります。全空連ルールが4月より大幅に改正となり、よりシビアさが求められる大会となりましたが、我が静岡県松涛連盟からも、少年からシニアまで大勢の選手がエントリーしましたが、通常のルールとは一味違う試合にもかかわらず、優勝者をはじめ全員が優秀な成績を収めることができました。また、他の流派・会派を観戦する絶好の機会に、参加した選手はもとより父兄の方達も、真剣な面持ちで見学しておりました。(レポート：広報部 秋山高士)

第8回静岡市葵・駿河区空手道大会



平成22年10月24日(日)静岡市北部体育館にて今年も静岡市民大会が開催されました。この大会は、静岡市内で活躍する他流派・会派が出場しますので、毎年楽しみにしておりました。支部より大会に出場した子供たちも、普段は会うことのない相手と戦い、見たこともない型を目にし、更には着けることのないメンホウをつけるのですから、刺激的だった事と思います。支部の子供たちは選手として、私は審判員として大会に参加させていただきましたが、見知らぬ型や技を判定するのは容易なことではありません。今年はルールの再確認と、より正確なジャッジの為に、事前に各流派・会派の先生方に集まっていた頂き、審判講習会が開かれました。特に「型」では各流派の選手に実際に指定型を演武してもらい、指導の先生より判定基準の注意点等を詳しく学びました。この審判講習会の成果が、大会でのジャッジにたいへん有効となり、審判員を務める事ができました。しかし他流とはいえ、この静岡市にもこんなにも素晴らしい選手たちがいるなんて... と、感動してしまいました。そんな中、我が道場にも上位入賞者がでて良かったと思います。一年に一度しか戦えない相手ではありますが、来年また再会する日まで稽古に励んでいただきたいと心より願っております。(レポート：駿河支部 白鳥尊之)

第11回JKS静岡県西部地区空手道大会

今回西部地区大会に臨み、子供達に「型」の選択について厳しく指導しました。1年間を通して継続して修練した型を打ちなさい！別の型を打ちたいのは、数名の生徒から痛いほど感じていました。結果、その種目僅差で勝利した生徒、圧倒的な開きで勝利した生徒等、入賞した生徒の胸に去来したものは一体何だったのでしょか。型を変えて戦っていれば納得できていたのでしょうか？勝負から学んだ大事な事、勝つために一生懸命努力する事、結果はその過程が生み出すこと。何かを得た大会だったと思います。ただ誤解しないでほしい、私は、「稽古」をして欲しいだけ。それには、量や数の進歩のみならず技の原理を考え、勝負の原理を社会生活に応用するといった、精神的な面が多く含まれます。勿論、格好良い型を打ちたいと、誰もが思います。また、他支部から毎回出稽古で来ていた選手の高段者向けの型を見て、それでは勝

てない事をはっきり伝え指導しました。彼は嫌だったかも知れませんが、試合で勝ちたいのか？負けたいのか？ただの発表会か？はっきりとした考え方を、子供の時に指導する必要があると思います。現実に目が覚めた彼等は、1年以上かけて修練した得意型で戦い、優勝したのです。稽古は、身心一如の稽古観があってあたりまえ。その発表が大会等です。けっしてお遊戯会的発想ではいけない。勿論万全な準備をしても負ける事もありますが、前述したとおり結果はその過程にあります。結果を考えず稽古する事、未来は自分が作り出すことを理解することです。大会前試合会場で右往左往、負けて言い訳を考える事など、あってはならない姿です。稽古とは古(いにしえ)を稽(かんがえる)ことであり、古きを考え新しきを知る上で「稽」には「考える」の意味があります。学問や学習をするという意味があるのです。稽古とは「型」を繰り返し行う修練であり、古来より「型から入る」と言われ、先人達の編み出した「型」を繰り返し行うことから始めたのです。格好良い型を行う事を良しとはしません。ただ、競技化やレクスポ化で各人の考えは多様です。だから指導者は悩むのだと思います。本当に将来繋がるものを身につけさせたいと。今回の西部地区大会、全国レベルの大会だったと感じています。誰が優勝してもおかしくなく、誰もが全国で活躍できる場に変化してきています。毎年競技レベルが上がるこの大会、来年からはもっと競技能力に合ったカテゴリーを増やし、多数の選手が参加できるよう広報に努め、かつ頂点を目指す人も多数いる有意義なものに西部地区役員一同変化させて行きたいと思います。ご協力いただいた各支部の皆さん、御父兄の皆さんたいへん有難うございました。心よりお礼申し上げます。

高い目標は面白い。「心から 実現したいと思うテーマ」が決まれば、方法や手段は自然とついてくる。きっと素晴らしい成果も得られる。(レポート：浜松律誠館支部長 石津 律男)



第2回龍勢空手道大会

木枯らしの便りが届きはじめた11月14日(日)に第2回龍勢空手道大会が、岡部町朝比奈のいきいき交流センターで行なわれました。第2回となっておりますが、前身の会長杯空手道大会から数えると、11回目となります。この大会は、試合に慣れていない選手に気軽に参加出来る大会の提供、そして若手指導者の審判員の育成(私もこの中に入っています)を基本的コンセプトに、大人も子供も共に学ぶ大会で有りたいとの思いで、毎年開催させて頂いています。さて今回の大会を少し報告させていただきます。開会式終了後に、各支部1人ずつ参加してもらい、予定に無かった試割が始まりました。初めての試割に緊張気味の中学生、そして我が子の勇姿を写真に収めようとする父兄と、和やかな雰囲気の中、試割が行なわれました。試合としては、型・組手はもちろん行ないますが、基本の部というものが在ります。実はこの基本試合が楽しいのです。試合内容は審判の号令に合わせて、自然体からの突きと、閉塞立ちからの前蹴りを、1本ごと気合を出して技を出しますが、もちろん基本試合に出る選手は、試合に出るのが初めて。緊張しながらも、堂々と技を出す姿が眩しく目に映ります。この大会の醍醐味は、選手と観客の距離がとても近いところだと思います。すぐ傍で聞こえる声援！判定時の割れる副審の旗に、感嘆ともため息ともつかぬどよめき。今回の大会では、子供たちと同様に、私も多くの事を学ばせて頂きました。また来年もより成長した姿で龍勢大会に出場して欲しいと思います。最後に各支部の先生方、指導員の皆様、コート係をしていただいた父兄の皆様に、この場を借りてお礼を申し上げます。(レポート：岡部支部琉芳会 増田公一)



秋も深まり、各地で大会のハイシーズンとなっております。5月に開催された静岡県大会で見かけた選手達が確実に実力を付けているのを実感しました。大会やイベントの予定がありましたら広報部まで一報いただけますと幸いです。(広報部)